

議題（１）

（仮称）平和資料館のコンセプト・建設場所

（参考資料）

特徴的な展示事例

（延床面積 1,800 m²以上の施設）

ピースおおさか大阪国際平和センター

設立主体：大阪府・大阪市

運営者：公益財団法人大阪国際平和センター

所在地：大阪府大阪市中央区大阪城2-1

開館年月：平成3(1991)年9月<平成27年リニューアル>

開館時間：午前9時30分～午後5時(入館は午後4時30分まで)

休館日：月曜日、国民の祝日の翌日(月曜日が祝日の場合、翌日の火曜日は開館)、
 年末・年始(12月28日～1月4日)、館内整理日(毎月月末)
 ※但し、祝日の翌日及び月末が日曜日にあたるときは、
 その翌々日の火曜日

入館料：大人250円 / 高校生150円 / 小・中学生無料

延床面積：3,480m²



1945年(昭和20年)3月13日の第一次大阪大空襲後の大阪ミナミ・戎橋筋界隈の焼け跡の様子をジオラマ化。
 このジオラマと床面をスクリーンにして空襲の様子をマッピング映像で再現する。

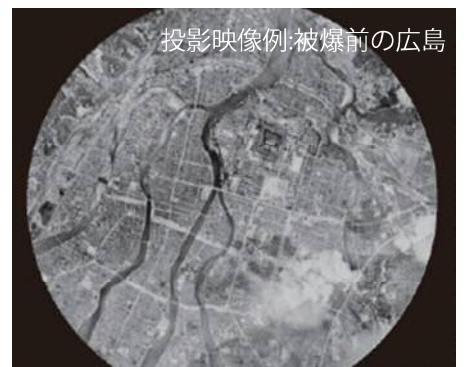


広島平和記念資料館

設立主体：広島市
 運営者：公益財団法人 広島平和文化センター
 所在地：広島市中区中島町1番2号
 開館年月：昭和30(1955)年〈本館〉
 開館時間：開館8:30
 閉館18時(8月:19時(8/5, 8/6は20時)、12~2月:17時)
 休館日：1 2月3 0日及び3 1日
 入館料：大人 200円 / 高校生 100円 / 小学生・中学生 無料
 延床面積：本館 / 1,600m² 東館 / 10,300m²



ホワイトパノラマ模型



投影映像例:被爆前の広島

爆心地を中心に、被爆当時の広島市の直径5キロメートルの範囲を、縮尺千分の1の白色模型にし、航空写真を基に、被爆前後の様相をプロジェクターの映像で投影。



本館「8月6日のヒロシマ」集合展示



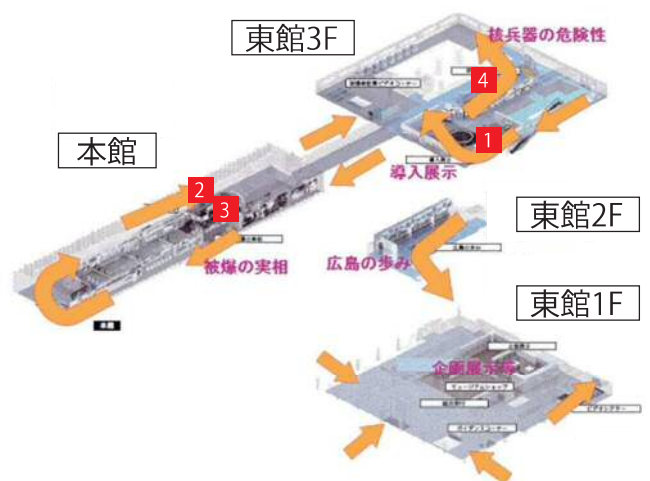
3

廃墟となった広島の写真や被爆資料や亡くなった人の衣服、遺体ややけどを負った人の写真などを展示。集合展示の向かい側では、被爆当日の凄惨な状況を、被爆資料や写真、「市民が描いた原爆の絵」を展示して伝える。



大型の情報検索装置「メディアテーブル」

タッチパネルで画面展開し、自分が知りたいさまざまな情報を入手することができる。



引用元 広島市ホームページ>原爆・平和>被爆体験や平和への思いの共有>広島平和記念資料館
 >広島平和記念資料館の展示更新>新たな展示手法など
 広島平和文化センター>機関誌「平和文化」>「平和文化」>No183 平成25年(2013年)7月号
 >広島平和記念資料館を全面的にリニューアル

埼玉県平和資料館

設立主体：埼玉県

運営者：サンワックス・太平共同事業体

所在地：東松山市岩殿241-113

開館年月：平成5(1993)年

開館時間：午前9時～午後16時30分(入館は午後16時まで)

休館日：県民の日を除く毎週月曜日(祝日の場合はその翌日)、
12月29日～1月3日

入館料：無料

延床面積：2,930m²



1 プロローグ(タイムトンネル)

入り口をくぐるとライトの演出で、来場者を現代から当時の世界へと誘う演出。



2 戦時中の国民学校(体験コーナー)

修身(道德)の授業の再現映像は、戦争に勝ちぬく人間を育てる授業風景。現在の教育と比較して考えさせる。



3 防空壕(体験コーナー)

戦時中のある一日を15分間で疑似体験できる展示。国民学校の教室のなかで、授業を体験し、その途中で空襲警報が流れ、防空壕に避難すると、音と光と振動により空襲の疑似体験ができる。



4 エピローグ 5 〈戦争への道〉〈太平洋戦争〉

「平和の創造」をテーマに、世界と日本の今を中心に展示。「今日の平和を未来につなげるには」争などの流れと、県民の耐乏生活や戦争との関わりを紹介。

筑前町立大刀洗平和記念館

設立主体：筑前町

運営者：筑前町

所在地：福岡県朝倉郡筑前町 高田2561-1

開館年月：平成21(2009)年10月3日

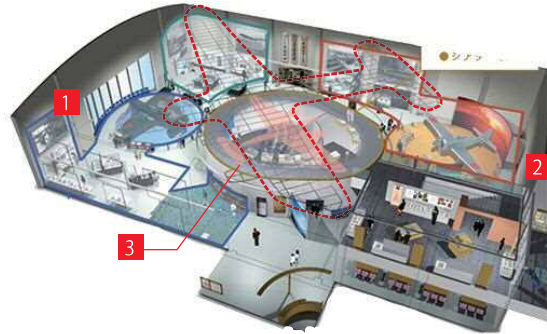
開館時間：午前9時～午後5時

休館日：年末年始のみ(12月29日～1月3日)

入館料：大人 500円

高校生 400円 / 小学生・中学生 300円

延床面積：1,880m²



戦闘機の実機や、天井から吊り下げられたB-29原寸大シルエットなどが伝える実際のサイズ感や質感は、戦闘や空襲のイメージをより感覚的に、リアルに見る人に伝える。